

概要報告

実施期日	7月29日(火)【午前】
部会名	小学校 生活部会

テーマ 『友だちの成長に関わり、自分の成長への気づきの質を高める学習活動
自分の成長を振り返る～すごろく作りを通して～』

提案概要

実践に向けての課題意識

1年生における成長単元では、自分自身の成長を振り返る際に、自分の思いや考えだけを視点とした主観的な振り返りが多かった。しかし、友だちが自分のことをどのように思っているのかという客観的な視点を取り入れることで、自分自身の成長に対する気づきの質をさらに高めることができるのではないかと考えた。

そこで、客観的な見方を取り入れるにあたって、①成長の過程を一つにまとめられるもの、②作品として表現できるもの、③成長に合わせて追加できるもの、④成長の喜びを友だちと分かち合えるものの4点を踏まえ、「すごろく作り」を設定し、活動を行う過程で友だちとの関わりを取り入れていく実践を行うこととした。

実践の概要

① 1年間の取り組み

1年間の成長を主観的に振り返る材料として、自分の成長の記録を様々な形で残した。

- ・「できたよカード」 各教科や日常生活の中でできるようになったことを自由に書かせた。
*学級では、「できた」をキーワードに互いを認め合う雰囲気づくりを心がけた。
- ・「1-2ねんぴょう」 毎月の行事や出来事を振り返り、年表として教室に掲示した。
- ・「振り返り作文」 各行事などの振り返りを行う際に、口語の作文を絵の上に重ねて書かせた。
- ・「学習作品」 各教科の学習で使用したノートや作品をまとめた。

② 「すごろく作り」の活動

- ・自分の成長を様々な材料から見付け出し、すごろくのマスとなる丸いカードに書きため、「成長ボード」にまとめさせた。さらにまとめたカードから、一人10枚のマス(ベスト10)を精選することで、自分が大切にしている成長を選び出させた。
- ・自分の成長に対して、友だちが「頑張ってたね」「すごかったね」と思ったことを「オススメ」として、マスに記入し渡すことで、自分の成長を客観的に捉えさせた。
- ・「オススメ」のマスと最初に自分で選んだ10枚のマス比べ、再度ベスト10を考え直し、自分の成長を捉え直させた。
- ・子どもの成長には終わりがなかったことやこれからもできることを増やしていこうという観点から、「ゆめすごろく」を作成し発展的な活動とした。

考察

「オススメ」のマスベスト10に選んだ児童は、「自分のより、友だちがすすめてくれたマスのほうが、ベスト10にふさわしいと思ったから」など自分の選択したものとは比べた上で、よりよいものと判断したと考えることができる。反対に、「やっぱり自分のベスト10の方が良い」と、ベスト10を変えなかった児童も「オススメ」のマス踏まえ、再考した結果、交換しない判断をしたと考えられる。

今回の授業から、児童は客観的な提案を受け入れ、判断の結果、より吟味された振り返りができたといえる。

成果

- ・1年間を通して様々な記録を残したことで、児童は自分の成長を振り返りやすくなった。
- ・友だちから、「オススメ」のマスもらうことで、自分の成長に対する友だちからの視点を知り、自分自身の成長を振り返る上で、気づきの質を高めることができた。
- ・成長すごろくとゆめすごろくを作ることで自分自身の成長に自信を持つとともに、今後の成長への具体的な期待を膨らませることができた。

質疑概要

- ◇Q) 課題としてはどのようなものがあるか。
- A) 日々の記録の残し方として「できたよカード」以外に何かなかったかという点。
- ◇Q) 授業の中でできるようになったことの他に日常生活の中でできるようになったことを記録させた意図とは。
- A) 家庭の中でできるようになったことも一つの成長だと捉えさせたいと感じたため。
- ◇Q) 自分の夢を単に並べている「ゆめすごろく」にはどのような意図があるのか。
- A) 1年生ということもあり、いろんな夢の選択肢があつてよいのではないか。
- ◇Q) 気付きの質とはなにか。
- A) 客観的な視点を主観的な考えと合わせ、再考した活動が、気付きの質だと考えている。
- ◇Q) 2年生に向けてどのような姿をイメージして行ったのか。
- A) 将来こんなことをやりたい、成長していきたいという思いを持つことをイメージした。
- ◇Q) 客観的な見方を取り入れるために、他学年との関わりはなかったのか。
- A) 学年のクラス数も多かったため、学級内だけの関わりとした。
- ◇Q) 言葉に表すことが苦手な子へはどのように支援したのか。
- A) 苦手な子に対しては、「何て書きたいの？」と周りの子が助けていた。
- ◇Q) 「オススメマス」を友だちに書いてあげる時の子どもの様子や教師の声かけはあったか。
- A) 教室の掲示物や作品を見て思い出すよう、声かけをした。
- ◇Q) 「できた」という言葉で表しきれない成長はどのように記録させたのか。
- A) 子どもたちは、「できた」という言葉に合わせるよう書き方を工夫していた。

研究協議概要

柱1：自分の成長に気付き、その気付きの質を高めるための工夫についてどのようなものがあるか。

(1) 友だちの意見を取り入れた今回の提案について。

- ・自分を認めてもらっているとの認識につながる。また、友だちのことを意識するきっかけにもなった。
- ・児童の実態に応じて、取り組み方が変わってくるのではないか。
- ・何が「気付きの質」なのか、捉えることが難しいと感じる。
- ・「できた！」瞬間をたくさん共有したことが「オススメ」のマスに繋がっている。
- ・「できたよカード」を見て書くだけで、友だちが本当に頑張っていた姿をどれだけ思い出すことができるのか。

(2) 他にはどのような手立てや工夫があるか。

- ・1年生の4月から文を書くことは難しいため、はじめは絵で表したり、教師が記録したりしてもいいのでは。
- ・「がんばったねカード」など、友だちのがんばりを書けるカードがあってもいいのでは。
- ・家族・地域・他学年との連携を深める。

柱2：子どもが繰り返し、自己肯定感を持てるような取り組みにはどのようなものがあるか。

- ・教師からの肯定的な言葉がけ。教師が一人ひとりの成長を捉えて認めることで子どもにも伝わり広がっていく。
- ・朝の会や帰りの会などに、友だちの良いところを伝え合い、友だちの良いところを見つける目を養う。
- ・ペア活動やグループ活動を多く取り入れ、授業の中でも良いところを見つけて伝え合えるようにする。
- ・たてわり活動を行い、上級生への憧れや成長した自分に気づくことができるようにする。
- ・目標を設定し、できた経験を多くもたせる。

まとめ概要

- * 気付きの質を高めるためには、活動や体験を振り返って、伝え合う機会が必要である。「できたよカード」を見て、友だちに「オススメ」をすることは、友だちに関心をもつきっかけとなる。友だちから「オススメ」をもらった子は自分が思っていることと比べ判断する。そこで無自覚から自覚された気付きに変わったと感じる。自分の成長という単位では、評価だけでなく、日常生活の中でも、自分のできたことに気付いていくことが重要である。
- * 自分の成長や良いところを素直に言える、喜べる低学年。それを教師が見取って広げていくことで、周りの子が気付いていく。そのようなことをこれからも行っていく必要がある。授業を実際に見させていただいたが、教室全体に子どもの成長が目に見える形で掲示されており、環境づくりがすばらしかった。
- * 多くの人々の支えにより自分が大きくなったこと、成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもつこと、というのが今回の提案で生きていたら良かったと思う。実りのある研究会だった。